

令和4年度園芸学部長と学生との懇談会について

懇談会テーマ（学部テーマ）

- ・学部の垣根を越えて学ぶことができるプログラムについて

実施日：11月10日（木）16:30～18:30

場 所：松戸キャンパスF棟4階大会議室（対面実施）

出席者：【教員側】研究科長・学部長、国際交流委員長、学務委員長

教務委員長、学生生活委員長

陪席（事務）：事務課長、学務係長、学生支援・国際係長

総務係長、会計係長

【学生側】学部生6名、大学院生7名

懇談会の開催に際し、事前に学部生6名に対して、学部テーマに関する事で提案したい事、学びたい事の意見照会（「学生の意見」提出様式使用）を実施した。学部生からの主な意見は以下のとおりである。

- ①現在の普遍教育科目には「サイエンスカフェ」や「カフェをつくる」はあるが、オンラインでの実施またはカフェの企画が最終到達点であり、実際にカフェを運営することはない。これらを発展させ、サイエンスカフェの企画運営までを行うプログラムを提案する。
- ②様々な学部の学生が合宿形式で参加し授業を受ける「合宿型スクランブル講義」を提案する。初日と二日目は希望する他学部の講義を選んで受け、最終日には選んだ講義内容と所属する学部の特性を活かしたプレゼンテーションを行う。
- ③千葉大学では「千葉大学グローバル人材育成”ENGINE”」という全員留学のための支援対策のためのプランを策定し、留学のための様々な授業を行っているが、それらをまとめて学ぶことができるプログラムを提案する。
- ④環境問題（現代的な 이슈（課題））を、文理問わず多様な方面から考える授業を希望する。
- ⑤ニュース等で話題になっている社会的出来事や研究について、他学部の各教授が学術的視点からだとどう見ているのか、またその考えを聞き、それらを踏まえて学生間で討論する授業を提案する。
- ⑥デジタル教育(理学部)や教育の倫理(教育学部)など、現代的な教育の場の問題を考え、教育のあり方の根底を学び、学生はそれぞれの担当科目に当てはめて、実際に授業をしてみる実習形式での授業プログラムを提案する。
- ⑦「食」「地球環境」「地域振興」「健康寿命」「情報」の5つのテーマについて、千葉大学にある10学部それぞれの視点から学んでいく履修プログラムを提案する（主に学部1年生向け）。
- ⑧新型コロナウイルスの流行によって感染症の怖さや予防の重要性を実感したので、学生自身が自分で健康的な体や精神を作る・守るための知識等が身につけられるプログラムを提案する。

まとまりのある 6-10 単位で分野横断的なプログラムが作られるとしたら何を学びたいかという点については、上述の学生からの意見のとおり、工学や教育、デジタル教育、留学のための英語教育など様々な分野での提案（希望）が出ている。

なお、学生からの意見は事前に作成・提出してもらっているため、懇談会ではこれらの意見について精査するのではなく、学部垣根を超えて学ぶことをどう考えるかという視点で議論を重ね、意見交換を行った。学部生からの主な意見は以下のとおりである。

- ①6-10 単位は大きいので、その分を履修したら教養コアは不要になるのか。
- ②1 年生のころは他学部の授業を受ける意味が理解できないことがあったが、実際に研究を始めてからは必要性を感じた。なので、必要性を感じてからやらないと意味がないかもしれない。
- ③周りでも副専攻プログラムを取ろうという学生がいたが、単位数上限があるため諦めた学生が多い。
- ④他学部の学生とのディスカッションは有意義だと思うが、学部の建物が隣り合っていて、その中間にある交流場所で定期的に交流するのなら良いが、園芸学部（松戸）には地理的条件があって難しい。
そうかと言って、オンラインではどうかとなると、オンラインも手間がかかるので対面が望ましい。
- ⑤大学受験時は、大学でやりたいことについて曖昧だったが、アルバイトや研究をするようになってからはあった方が良くと思うようになった（例えば金銭に関しての話は園芸学部では学ぶことは難しいので）。
- ⑥自分の研究が工学に跨る内容なので、工学に関わる部分で研究が止まるようなことがある。墨田キャンパスでの工学部と緑地環境学科の展示会を見て良いと思った。（例えば自身の研究として、移送中の衝撃について研究しているが、その時に使う機材の精度とかをしらないと正しくデータがとれているか不安がある。そうかと言って、機材自体はいじれないしと悩むことがある）。
- ⑦学部レベルでは、人数も多いのでなくてもよいのではないか。大学院レベルだと必要かと思うこともある。
- ⑧他分野も学ぶとなると、その分、所属する学部の知識が浅くなるのではないか。